



学校だより  
**桜っ子  
通信**

校訓  
自ら学び  
自ら考え  
自ら行う

令和6年2月2日 第104号  
長崎市立桜町小学校長 野中 正樹

## 龍が紡いだ絆

これまでの学校便りなどでもお知らせしましたが、昨年6月に諫早市高来町の金崎龍踊り保存会様から、子龍を桜町小学校に譲渡していただき、11月20日(日)の桜っ子くんちで多くの皆様に披露させていただきました。金崎龍踊り保存会の皆様の思いや願いをしっかりと受け止めた5年生の子どもたちは、五嶋町の指導者の方々の熱心なご指導の下、感謝の気持ちを本番の龍踊りで表現しようと、真剣に稽古に取り組んできました。そして、桜っ子くんち当日は、金崎龍踊り保存会の皆様にもご来校いただき、5年生の龍踊りを見ていただきました。また、桜っ子くんちを終えた5年生の子どもたちから金崎龍踊り保存会の皆様に感謝の手紙も送らせていただきました。

先日、金崎龍踊り保存会会長の池田忠恕様とそのご家族から5年生に宛てた自筆のお手紙をいただきました。そこには、5年生の子どもたちに向けた心のこもった感謝の言葉が書かれていました。また、5年生が書いた手紙を額に入れて飾っていただき、その前で座っておられる池田様の写真が同封されていました。5年生の感謝の気持ちが桜っ子くんちでの龍踊りや手紙をとおして、しっかりと伝わったことがうれしくなるとともに、池田様の優しさや龍踊りに対する思いに触れて、私も胸が熱くなりました。以下に池田様のご了承を得て、いただいたお手紙を掲載しております。

これからも龍が紡いでくれた金崎龍踊り保存会様や金崎地区の皆様と桜町小学校の絆を大切にしていきます！

<p>謹啓</p> <p>昨年、龍を通じてご縁をいただき、あつという間に数か月がたちました。今でも、行くべき所に行ったそれぞれの龍の事を思い出しては話しています。</p> <p>又、昨年は桜っ子くんちにお招きいただき、私は仕事と重なって行くことができませんでした。父たちは子どもさんたちの演技、かけ声の一体感に感動し、父は涙ぐんだと聞きました。父からしては、ひ孫のような子どもさんたちからいただいた手紙を何度も何度も見ては、元気をもらって、「今年も是非親たいノ」と生きる糧にして、日々過ごしています。</p> <p>新年を迎え、ご挨拶を兼ね、お礼を伝えたいと、震える手で一生懸命書いた手紙と写真を同封いたします。</p> <p>お礼遅くなりましたことお許し下さいませ。</p> <p>今年も龍の年です、ますますのご活躍を楽しみにし、桜っ子くんちも盛り上げていきますこと、お祈り申し上げます。</p> <p>令和六年一月二十日 桜町小学校長 野中 正樹</p> <p>池田 麻須美</p>	<p>新年おめでとうございます。</p> <p>昨年十二月に龍踊りの楽しさ、嬉しさの心のこもったお手紙を一人ひとりの皆様から頂いて、大変感激しております。</p> <p>龍は生きものですから、今年も気合を入れて頑張ってください。</p> <p>私は今九十九才ですから、今からおくんちの行事まで体調が良ければ、是非とも見せて頂きたいと思っています。</p> <p>ていねいに書いたつもりでしたが、九十九の私には良く書けず乱筆のようになってしまいました。お許しください。</p> <p>五年生の皆様方へ</p> <p>令和六年一月十九日</p> <p>池田 忠恕</p>
---	---

## 中央公民館区 青少年意見発表会

1月28日(日)メルカつきまち内の長崎市市民生活プラザホールにて、令和5年度第23回青少年意見発表会が開催されました。中央公民館区青少年育成協議会連絡会が主催して開催されるこの意見発表会は、中央公民館区内の児童生徒が日頃考えていることを発表する機会を設けることにより、児童生徒同士の交流を図るとともに、地域や社会の一員として自覚を促すこと、及び、家庭を含め、地域の大人が児童生徒の声に直接耳を傾けることにより、青少年に対する理解と関心を深め、地域ぐるみで健全育成の意識高揚を図ることを目的としております。意見発表会には中央公民館区内の小学校11校、中学校7校を代表して、18名の児童生徒が、将来の夢や日頃の生活を通して感じたこと、身近な地域や長崎市のすばらしさなどについて、自分の思いや考えを堂々と発表していました。



桜町小学校からは、6年生の〇〇〇〇さんが「逃げずに立ち向かう大切さ」と題して、桜っ子くんちで取り組んだ太鼓山の稽古を通して学んだことを落ち着いてしっかりと発表することができました。そして、自分の限界を打ち破れる人になりたいという決意を発表することができました。発表内容の構想から執筆、発表練習など、とても大変だったと思いますが、この意見発表会の取組をとおして、〇〇さんの限界がまた少し広がったのではないかと推察いたします。

何かと忙しいこの時期にもかかわらず、頑張った〇〇さんに心から賞賛を贈ります。よく頑張りました！！

なお、裏面に〇〇さんの発表原稿を掲載しておりますので、よかったらご一読ください。

## 逃げずに立ち向かう大切さ

桜町小学校 6年 〇〇 〇〇

この2学期、修学旅行、小体会、桜っ子くんちなど様々な行事があった。その中で印象に残っている言葉がある。それは、「逃げることは簡単」という言葉だ。これは、桜っ子くんちの指導者、山崎猛さんが太鼓山の稽古の中で言われた言葉だ。私の学校では、毎年11月に桜っ子くんちが行われる。その中で六年生は、椀島町の「太鼓山」を披露する。

私は、今回、太鼓山の担ぎ手を担当した。初めての稽古で太鼓山を担いだとき、あまりの重さに驚いてしまった。これを20分以上担いで、さらに、大きな声を出しながら演技をする。私は、「重すぎて、声なんか出せない。無理だ。」とってしまった。2回目の稽古は、ただ担いで声を出し、歩き続けるだけだった。3回目の稽古も同じだった。だんだんと声も出さなくなり、肩が痛くなって「もうやりたくない」と考えるようになった。

そして、手の振り方や担ぎ方を適当にしてしまうようになっていった。しかし、ふと周りに目を向けると、一生懸命声を出し続けている友達が見えた。視線を上に向け、生き生きとした表情で「あーよーやーさ」と大きな声を出し続けていた。私も頑張ってみようかなとは思ったが、なかなかすぐには行動に移すことができずにいた。そのとき、山崎さんの「逃げることは簡単」という言葉に出会った。私は、少しでもきつかったら、すぐに逃げてしまい、自分に甘すぎるところがある。それに、「周りの人がやってくれるし、もういいかな」と思ってしまう。思い出してみると、太鼓山を担いでいるだけで、声を出さず周りの人に任せっきりになっていた。友達はきつくても逃げずに、声を出し続けていた。友達が声を出し続けられたのは、逃げずに自分の限界を打ち破ることができたからだろう。きつくて逃げていた私は、その友達をすごいなと思いつつ、行動に移すことをためらった。そんな自分が情けないと思った。

桜っ子くんち本番、私は、山崎さんの「逃げることは簡単」という言葉を頭に思い浮かべながら、本番に臨んだ。太鼓山を肩に押さえつけるようにしっかりと担ぎ、声を出すことに集中した。すると、周りの友達もいつもの稽古以上に、懸命に声を出し続けていることに気づき、たくさんの人の前で、太鼓山を披露することが自然と楽しく思えてきた。最高と思える太鼓山を披露でき、私は、自分の限界を少しだが破ることができたと思う。

この太鼓山の稽古を通して、私は、友達のように、きつくても逃げずに、自分の限界を打ち破れる人になりたいと強く思った。残りの小学校生活、きつくても逃げずに立ち向かうことを大切にしていきたい。「逃げることは簡単」これを、心に刻み生活していきたい。